

■しまゆむた

奄美市の花・木の選定に関して

楠田 哲久（奄美サテライト教室科目等履修生）

今年、3月25日に、奄美市誕生1周年記念式典の中で、奄美市の花・木の発表を担当することになりました。その発表内容と、選定までの経緯、さらには今後の展望までを書いてみます。

1. はじめに

本土とは異なる奄美の植物景観、亜熱帯の島、奄美は、日本列島における生物地理上の境界線、渡瀬ラインの直南に位置し、生物社会の国境地帯といわれている。

天然記念物第1号のアマミノクロウサギや天然記念物のケナガネズミ、トゲネズミ、ルリカケス、アカヒゲ、オオトラツグミ、オーストンオオアカゲラ、イシカワガエルなどの動物相とともに、イタジイを優先種とし、これに混生するイジュ、イスノキ、タブノキ、コバンモチなどの常緑広葉樹林がひらける森林は、わが国に残された貴重な亜熱帯林として、固有、北限などの貴重な植物の産地として、奄美は植物の宝庫である。

また、海岸に目を向けると、ガジュマル、オオハマボウ、サキシマフヨウ、アダン、クサトベラ、モンパノキなどを各島嶼の海岸線に見ることができ、明らかに本土とは異質の植物景観である。

大きな特徴は、北上する南方系の植物の北限地帯であるとともに、多くの島嶼的固有植物が見られることであろう。

特異な植物としてソテツもよく見ることがある。このソテツは化石植物として、秋から冬にかけて、赤く熟した実が目立つが、滅び行く植物としてのソテツのふるさとで

もある。

また一見平凡に見えるマツでも、れっきとした独立種、リュウキュウマツの宝庫でもある。

以上のようなことを、大島高校生物部時代の恩師、大野隼夫先生より、いつも聞かされていまして、自然保護、環境保全ということに関しては、奄美で生活しながら、いつも念頭にありました。

奄美の「世界自然遺産登録」の盛り上がりを少しずつ感じ取るようになったのを機会に、奄美サテライト教室の科目等履修生として何かできないかと思っていました。

1月初めに、奄美市の花・木の公募が奄美市企画調整課広報係からあったのを幸いに委員に応募しました。

六名の選定委員により、第1回が2月16日で、第二回が3月1日の二度の委員会を開いて選定の審議をいたしました。

2. 発表内容

奄美市の花木等については、奄美市市花等選定委員会（有識者3名、公募による抽選で選ばれたもの3名の合計6名）とアンケート集計により、白熱した協議の結果、次のように選定し、市長の承認を得て決定いたしました。

1) 奄美市の花

シャリンバイ（バラ科）

Rhaphiolepis indica var. *umbellata*

選定理由：

在来種で、大島紬の染料にも使われるなど、伝統産業を支えてきた花です。

街路にも植栽され、テーチギとして市民に親しまれています。旧の3月節句の頃に、花の径が3cmぐらいの白い花を多数着けて、ほのかな香気を放ち、群がり咲くその姿は、奄美市の春の風物詩の一つとなることでしょう。

ハイビスカス (アオイ科) Hibiscus

選定理由：

フヨウ属の総称であり、在来種のオオハマボウ、サキシマフヨウ等も含まれますが、一般的にはブッソウゲ(仏桑花)のイメージが市民の間で定着しています。本市でも古くから栽培されて、この葉は女性の洗髪などに利用されておりました。古くは、南島雑話にも不曾花としてでています。

2) 奄美市の木

リュウキュウマツ (マツ科)

Pinus luchuensis

選定理由：

琉球列島の固有種です。大木は奄美に多く、市内には琉球列島屈指の大木もあります。奄美の山の黒っぽい緑を形成している木で、木工芸品なども近年注目されています。海岸線の松林は、今後観光資源としても期待されます。「磯の松風、渚の千鳥」と奄美の新民謡の一節にあるように、奄美の海と松はよく似合っています。

ガジュマル (クワ科)

Ficus microcarpa

選定理由：

木登りやブランコなど子どもの遊び場として、また夏の木陰は住民の憩いの場として古くから市民に親しみのある木です。奄美の民謡に出てくる「ケンムンさん」の棲み処とも言われ、奄

美の象徴的な木でもあります。神の宿る木ともいわれています。

3) 奄美市のその他の植物

ヒカゲヘゴ (ヘゴ科)

Cyathea lepifera

選定理由：

花・木のほかに、特殊な植物を市のシンボルに加えることにより、奄美市の植物の多様性、豊富さを内外に示すことができます。ヒカゲヘゴは、常緑性シダ植物で、高さ10mにもなり、古代のジャングルを連想させ、奄美の亜熱帯の深い森を最もよく象徴している植物です。金作原や三太郎峠に、このヒカゲヘゴの大きな群落を見ることができます。

これらの花や木は、奄美市の自然の豊かさを対外的にPRできて、多くの市民に親しまれて、新生奄美市のシンボルとして一体感を持てるものと思います。

猶、委員会では近い将来には、奄美の魚(これは海も川も)、奄美の貝、奄美の蝶、奄美の鳥、奄美の動物(いろいろ)等も制定して、奄美市の自然の豊かさ、種の豊富さをもっとアピールして、世界自然遺産登録へつなげていけないだろうかという事も話題となりました。

3. 奄美市の花・木等決定までの経緯

奄美市の花・木等を選定するに当たっては、次のような作業を進めました。

1) 市民アンケートの実施

平成19年1月に実施いたしました。

・実施方法

広報紙「奄美だより」1月号及び地元新聞(南海日日新聞・大島新聞)2紙にて、アンケートへの応募を呼びかけ、はがき及びメールで回答してもらう方法をとりました。

た。

・アンケート結果

37通のはがきによる回答及び1件のメールによる回答がありました。

2) 奄美市市花等選定委員の設置

名瀬地区、住用地区、笠利地区から有識者を各1名選任、また、公募による委員3名を選任し「奄美市市花等選定委員会」を設置いたしました。

委員の公募については広報紙1月号及び地元新聞2紙にて、応募を呼びかけ、はがき及びメールで応募してもらう方法をとります。

5名の応募があり、市職員以外の立会いのもと、奄美市企画調整課にて抽選を行い、3名を決定しました。

委員は次のとおりです。

- 田畑 満大 (名瀬地区の有識者)
- 森田 勇 (住用地区の有識者)
- 春山 辰次郎 (笠利地区の有識者)
- 楠田 哲久 (公募による抽選の結果)
- 作田 裕恒 (同上)
- 村田 トシ子 (同上)

3) 奄美市市花等選定委員会での協議

第1回目の会を2月16日に、第2回目の会を3月1日に開催し、奄美市の花・木等について協議しました。

協議に当たっては、在来種であることを基本としながら、市民アンケートの結果も取り入れて話し合われました。

4) 奄美市市花等選定委員会から報告書の提出、及び奄美市の花・木の決定

奄美市市花等選定委員会が、奄美市長に報告書を提出いたしました。

これを受けて奄美市長が奄美市の市花・市木等を次のとおり決定いたしました。

◎ 市の花

シャリンバイ・ハイビスカス

◎ 市の木

リュウキュウマツ・ガジュマル

◎ 市のその他の植物

ヒカゲヘゴ

(市花及び市木を2種類とする理由)

- ① 選定委員会の議論をえた結果として、1種類に絞り込めなかった。
- ② 2種類以上を定めている市町村もある(県内においては指宿市、西之表市、霧島市など)。

以上が経緯の要約です。

4. 今後の展望

奄美には、世界自然遺産級の宝が豊富にあることを再認識するような委員会であったように思う。日本で既に自然遺産登録されている屋久島や知床などと、奄美は環境が全然異なる事にも気づきました。

屋久島や知床は自然と人の生活圏には境界があり、分離されています。

奄美は海、人の生活圏、山と連続しており境界線はありません。だから、人と自然が共生し、調和しながら、お互い共存しての世界自然遺産を目指すという、新しい価値観で奄美の人が生きていかなければなりませんし、大きな節目だと思えます。

奄美が、地球上の全ての地域の良いモデル地区となることに期待します。

参考文献

- 大野隼夫 奄美の四季と植物考 道の島社 1982
- 大野隼夫 奄美群島植物方言集 奄美文化財団 1995
- 片野田逸郎 琉球弧・野山の花 南方新社 1999
- 名越左源太 南島雑話1・2 平凡社 1996

- 杉本正流 鹿児島の植物図鑑 朝日印刷書籍 出版1992
 杉本正流 続鹿児島の植物図鑑 朝日印刷書籍出版1991
 採集と飼育 1983年12月号 財団法人日本科学協会 1983
 宮山 清 奄美の薬草と山菜 奄美山草会 1983
 大島高校生物部 ORIENS 第6号 鹿児島県立大島高校 1965
- 大島高校生物部 ORIENS 第7号 鹿児島県立大島高校 1966
 大島高校生物部 ORIENS 第8号 鹿児島県立大島高校 1968
 大島高校生物部 ORIENS 第9号 鹿児島県立大島高校 1973
 山下 弘 奄美の絶滅危惧植物 南方新社 2006
 奄美市企画調整課資料 2007

資料1

ハイビスカスについて

(奄美の四季と植物考=大野隼夫より)

ハイビスカスといえばブッソウゲの代名詞となっているが、フヨウ属に与えられた学名上の属名であり、ブッソウゲはその中の一種に過ぎない。

学名 *Hibiscus rosa-sinensis* の後の語は「支那のバラ」の意で、その原産地は南中国、マレーシア、インドなどといわれている。

現在ハワイがハイビスカス（ブッソウゲ）のメッカの如く宣伝されているが、それは古い時代に移入し、多数の園芸品種を作りだしたからである。

ハワイとフロリダで、世界の熱帯各地から集めたハイビスカスを母種として作りだされた園芸品種は現在5000をこえるとのことである。

ハワイの州花としては世界的にも有名である。

資料2

科名	属名	種名 (和名)	方言
○ アオイ科	フヨウ属	ブッソウゲ	ちょうちんばな
学名 <u>Hibiscus</u> <i>rosa-sinensis</i> L.			
○ アオイ科	フヨウ属	フヨウ	かじき
学名 <u>Hibiscus</u> <i>mutabilis</i> L.			
○ アオイ科	フヨウ属	オオハマボウ	ゆうなぎい
学名 <u>Hibiscus</u> <i>tiliaceus</i> L.			

資料3 市花候補種



アマミセイシカ

ツツジ科ツツジ属

学名 *Rhododendron amamiosimense*

奄美大島固有のツツジ科の大本植物で、3月下旬頃から薄桃色を帯びた白い清楚な花を咲かせます。奄美大島でも自生地は中南山岳地帯に限られているうえ盗掘のため個体数が激減し、幻の花といわれています。絶滅危惧IB類 (EN) 種に指定され、2004年から県条例で捕獲が禁止されました。

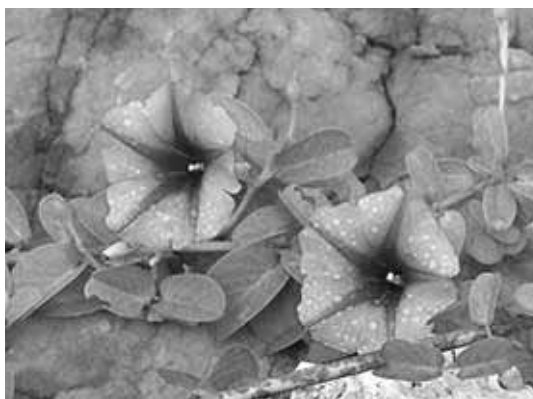


オオハマボウ

アオイ科フヨウ属

学名 *Hibiscus filiceus*

琉球列島以南の亜熱帯～熱帯地域に分布する。別名はゆうな (右納)、丸っこい花をつけ、花色は黄色、オレンジ色などがある。葉はハート形で、基部の両側が重なって、ほとんど円形に近くなる。



ゲンバイヒルガオ

ヒルガオ科サツマイモ属

学名 *Ipomoea pes-caprae*

宮崎県以南の海岸に分布するが、海流に乗って種子が運ばれるために、太平洋側では茨城県、日本海側では山形県まで幼体が発見されている。海岸の砂地に生える多年草。葉が行司のもつ軍配 (ぐんばい) に似ているのでその名がついた。



シャリンバイ

バラ科シャリンバイ属

学名 *Raphiolepis umbellate*

常緑低木。東北地方南部以南、韓国、台湾までの海岸近くに野生する。葉は楕円形で厚く、深緑色でつやがある。奄美大島では大島紬の染料に使われる。また、乾燥や大気汚染に強いことから道路脇の分離帯などに植栽される。



ハイビスカス

アオイ科フヨウ属の総称

学名 *Hibiscus*

ハイビスカスはアオイ科フヨウ属の低木の総称で、一般的にはブツウゲを指すことが多いが、これはもともと雑種植物であるために変異に富み、近年ハワイでの交雑種を含めて呼ばれるようになり、さらに類似のフヨウ属植物を漠然と指すこともあって、極めて複雑なアオイ科の園芸種群の総称ともなっている。フヨウ属は北半球の熱帯、亜熱帯、温帯地域に自生する。



サキシマフヨウ

アオイ科フヨウ属

学名 *Hibiscus makinoi* Jotaniet Hohba

九州の一部と福江島、甌島以西にのみ自生しているのが確認されています。沖縄の先島諸島に多く見られることからサキシマフヨウの名がつけました。サキシマフヨウは同属のフヨウ(芙蓉)に良く似ていますが、葉などに生える毛の形態が異なります。



オオシマウツギ

ユキノシタ科ウツギ属

学名 *Deutzia naseana* Nakai

ラテン語で「名瀬の」という形容詞を使い、1921年植物学者・中井猛之進博士によって命名された。奄美に固有の落葉小低木で、美しい白い花をぎっしりと咲かせる。



イジュ

ツバキ科ヒメツバキ属

学名 *Schima liukuensis*

大島から全琉球にかけて分布。常緑高木。新芽赤く、葉は長楕円形、先が尖っている。葉の表面は光沢がある。花は6月頃枝の先に、白い梅に似た花を平開する。果実は10月頃熟し、5裂して、中から扁平な膜質の翼をつけ種子がとび散る。



ガジュマル

クワ科イチジク属

学名 *Ficus microcarpa*

熱帯地方に分布する常緑高木。日本では沖縄県や屋久島など南西諸島に植生している。樹高は20m。幹は多数分岐して繁茂し、囲から褐色の気根を垂れる。垂れ下がった気根が自分の幹にからみつき、派手な姿になる。気根は当初はごく細いが、太くなれば幹のように樹皮が発達する。地面に達すれば幹と区別が付かない。



ゲッキツ

ミカン科ゲッキツ属

学名 *Murraya paniculata*

もともとは奄美大島以南の南西諸島に見られる常緑小高木。葉は奇数羽状複葉で互生、小葉は長さ1.5~5cm。花は枝先または葉えきに散房花序を出し数個の5弁の白花をつけます。果実は赤熟。枝や葉がよく茂るので、生け垣などに植えられることが多いようです。



ソテツ

ソテツ科ソテツ属

学名 *Cycas revoluta*

温暖な地方の海岸などに生育する常緑の裸子植物。初夏に大型の花を咲かせる。花の長さは50cm以上もある。幹の内部には大量のデンプンが貯蔵されている。飢饉時などにはこれを取りだして食べたという。しかし、サイカシンという毒が含まれており、十分に水に晒して除去する必要がある。



リュウキュウマツ

マツ科マツ属

学名 *Pinus lichuensis* Mayr

トカラ列島以南の南西諸島に分布する。平地~山地が生育環境の常緑高木。幹はクロマツに似るが、冬芽や葉は赤松に似ている。街路樹としても用いられている。

沖縄県の県木である。